

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人熊本県立劇場	
施 設 名	熊本県立劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	20,869	(千円)
公演事業	13,590	(千円)
人材養成事業	883	(千円)
普及啓発事業	6,396	(千円)

1. 事業概要

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	くまモン音楽祭	平成31年4月14日	出演：佐渡裕（指揮）、スーパーキッズ・オーケストラ（弦楽オーケストラ）、熊本県高校生選抜バンド（吹奏楽）、菊陽中学校合唱部（合唱）	目標値	1,650人
		熊本県立劇場 コンサートホール		実績値	1,693人
2	第61回熊本県芸術文化祭 オープニングステージ 「大地のうた」	令和元年9月1日	総合演出：藤原道山、 司会・尺八／藤原道山 唄／伊藤多喜雄、唄・三味線／RIKKI 唄／おもだか秋子、尺八／佐藤公基 津軽三味線・胡弓／橋本大輝、唄・ 三味線／福島竹峰、本條秀美、田中 祥子、椿日登美、田苗基春、藤本寿 紫 ほか	目標値	800人
		熊本県立劇場 演劇ホール		実績値	808人
3	チェコ・フィルハーモニー 管弦楽団	令和元年10月29日	指揮：セミヨン・ビシュコフ、 管弦楽：チェコ・フィルハーモニー 管弦楽団 プログラム：スメタナ/連作交響詩 「わが祖国」	目標値	1,500人
		熊本県立劇場 コンサートホール		実績値	1,111人
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

(2) 平成31年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	県劇ゼミ 「舞台芸術制作セミナー2019」	通年	講師 ①裏方が支える舞台…空間創造研究所 代表 草加叔也 ②舞台制作とスタッフの役割…空間創造研究所 代表 草加叔也 ③劇場の仕組みを学ぼう～劇場探検ツアー…熊本県立劇場職員 ④事業運営と舞台技術の実演…熊本県立劇場職員 ⑤⑥企画から公演まで…愛知県芸術劇場 林健次郎 ⑦舞台芸術と法律…骨董通り法律事務所 弁護士 岡本健太郎 ⑧広告とデザイン…(株)ジャム 代表 小山田宗玄 ⑨フロント業務について(受付と客席案内)…熊本県立劇場職員 ⑩公演の実施～ホールを使ったフロント業務の実践…熊本県立劇場職員 ⑪⑫実現可能な企画を立てる…愛知県芸術劇場 林健次郎	目標値	20人
		熊本県立劇場 中会議室ほか		実績値	123人
2	地域伝承芸能育成事業	令和元年7月 ～令和2年2月	(1)清和文楽出前講座(アウトリーチ)のプログラムづくり 講師:淡路人形座(兵庫県南あわじ市)所属の人形遣いと義太夫 (2)「三番叟」上演のための研修会 講師:鶴澤燕翔(三味線)、藤舎仁鳳(笛)、中村花誠(太鼓)	目標値	10人
		清和文楽館ほか		実績値	174人
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	演奏家派遣 アウトリーチ事業	令和元年10月 ～令和2年2月	出演：村田 貴洋（サクソフォン）、緒方 愛子（ヴァイオリン） 亀子 政孝（コントラバス）、山本 亜矢子 （ピアノ）	目標値	900人
		あさぎり町の小学校 ほか		実績値	771人
2	市町村ホール ネットワーク事業	通年	出演：野村万禄（狂言）、三遊亭好楽（落 語）、藤原道山（尺八）、SINSKE（マリン バ）、熊本交響楽団（管弦楽）、独楽（邦 楽）、栗コーダーカルテット（リコーダー アンサンブル）、あべや（邦楽）	目標値	3,100人
		八千代座ほか		実績値	2,929人
3	劇場って楽しい!! in 熊本 知的・発達障害児（者）に むけての劇場体験プログラム	令和元年6月19日、 11月9日	1. 研修会 講師：鈴木京子 国際障害者交流センタ ー「ビッグ・アイ」プロデューサー、南 部充央（株）リアライズ バリアフリーイ ベントディレクター、松尾由美 熊本市 発達障がい者支援センターみなわ地域 支援マネージャー 2. コンサート体験 出演者／チアーズトリオ	目標値	180人
		熊本県立劇場 演劇ホール		実績値	177人
4	「地域をむすぶ アートプロジェクト －高齢者編－」 演劇的手法を活かした 認知症声かけワークショップ	令和元年7月8日ほか	講師：「老いと演劇」OiBokkeShi（オイボ クケン）主宰・菅原直樹、木内里美（俳 優）	目標値	50人
		碩台地コミュニティセンター、 子飼商店街		実績値	244人
5	行くぜ！劇場探検隊	令和元年8月9日	出演：劇団きらら	目標値	60人
		熊本県立劇場 演劇ホール		実績値	56人
6	県劇盆踊り	令和元年8月15日	出演者：牛深ハイヤ保存会、美鵬直三朗 （囃子）、三音麻央（唄）、山中裕史（三 味線）、中山民俗舞踊・中山芳保会【台風 接近に伴い中止】	目標値	1,000人
		熊本県立劇場 演劇ホールホワイエ		実績値	-
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
運営方針や地域のニーズ（熊本県立劇場のあり方検討会提言書）等を踏まえて設定した4つのミッションに基づき、下記の通り事業を実施した。
<p>①「こころの復興、共生の場としての劇場」 熊本地震の復興支援として「くまモン音楽祭」「県劇盆踊り」を企画。「県劇盆踊り」は台風接近で中止せざるを得なかったが、「くまモン音楽祭」は地震から3年の節目の事業として実施し、県民相互の交流やコミュニケーションの役割を果たすことができた。また、「地域をむすぶアートプロジェクト」では演劇的手法を用い超高齢社会の課題に地域とともに取り組み、「劇場って楽しい！！in 熊本」では、障害の有無に関係なく誰もが文化芸術に触れ親しめる環境づくりに取り組んだ。これらの事業を通して、「共生の場」として地域コミュニティの諸課題解決に貢献することができた。</p> <p>②「県内文化ホールの中核施設としての劇場」 「演奏家派遣アウトリーチ」や「市町村ホールネットワーク事業」について、県内市町村ホールと連携して実施。新型コロナウイルス感染症の影響で「ネットワーク事業」のうち1公演を中止したものの、その他は概ね予定通り実施し、熊本県全体の文化振興に貢献した。</p> <p>③「未来を担う世代を育成する劇場」 「地域伝承芸能育成事業」で熊本固有の伝承芸能「清和文楽」の担い手、「舞台芸術制作セミナー」で舞台芸術作品の制作者の養成を図った。台風等で一部スケジュールに変更はあったが、予定通りのカリキュラムを実施することができた。そのほか、「くまモン音楽祭」は県内の高校生による選抜バンドを対象に世界的指揮者である佐渡裕氏によるクリニックを実施、「行くぜ！劇場探検隊」では親子対象のバックステージツアーで劇場や舞台芸術への幅広い興味を喚起するなど、若い世代の育成に寄与している。</p> <p>④「県民の文化芸術鑑賞（活動）の殿堂としての劇場」 県民参加の創作舞台「熊本県芸術文化祭オープニングステージ」では総合演出に尺八演奏家の藤原道山を起用し、県内で活動する民謡演奏家と共に公演を創り上げた。鑑賞の事業としては「チェコ・フィルハーモニー管弦楽団」を招聘し、ホールの特性を活かした質の高い演奏を可能な限り手頃な料金で鑑賞できる機会を県民に提供した。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
公演事業では、クラシック音楽と演劇等のための2つの専用ホールの特性を活かした実演芸術公演を実施。とくに、熊本県には常設のプロオーケストラがなく、海外オーケストラを招聘するプロモーターもないことから、県立劇場が質の高いオーケストラをコンスタントに招聘している。直近3年間に助成を受け招聘した海外オーケストラとしては、「パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツカンマーフィル」、「ゲルギエフ指揮マリンスキー歌劇場管弦楽団」、「佐渡裕指揮トーンキュンストラ管弦楽団」がある。これらについては助成によりチケット料金を安価にするとともに、青少年や障害者には割引制度を設定、鑑賞者の裾野を広げる取り組みを行っている。人材養成事業については、先にも紹介した熊本県立劇場のあり方検討会提言書でも長期的視点からの人材育成・確保が必要とされ、継続的にアートマネジメント人材等の育成事業に取り組んでいる。普及啓発事業では、「共生の劇場」「県内施設の中核施設としての劇場」としての役割を果たすべく、さまざまな機関と連携し、文化芸術を取り巻くよりよい環境づくりに貢献している。他機関と連携して実施した事業としては、「市町村ホールネットワーク事業」（市町村ホール）、「演奏家派遣アウトリーチ事業」（市町村教育委員会）、「劇場って楽しい！！」（社会福祉法人熊本市社会福祉事業団）、「地域をむすぶアートプロジェクト」（黒髪/硯台校区社会福祉協議会、熊本保健科学大学地域包括連携医療教育研究センター）等多岐にわたる事業が挙げられる。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】

①県民の文化活動の充実

・当該年度に実施する2本の創作公演で、合計310人が出演。目標比206%を達成した。

②良質な舞台芸術公演鑑賞機会の提供

・各公演の満足度は「くまモン音楽祭」が97.8%、「第61回熊本県芸術文化祭オープニングステージ『大地のうた』」で96.0%、「チェコ・フィルハーモニー管弦楽団」で98.8%を達成。3公演平均は97.5%となり、目標(90%)を大幅に上回った。

・より広く鑑賞機会を提供できたか、裾野の拡大を新規顧客数で測定。初めて生のオーケストラや民謡を聴いたという来場者は全体の17.5%(アンケートから測定)であり、目標の10%を超えることができた。昨年度比でも4.4ポイント上回った。

③青少年の環境機会の拡大

有料公演はU25割引利用者数から、無料公演はアンケートからおおよその人数を割り出したところ、520人超の青少年が来場。目標値(400人)をクリアした。

④誰もが文化芸術に親しめる環境づくり

有料2公演で86人の障害者の来場があった。目標(100人)には届かなかったものの、昨年度は3公演で87人の利用で、利用率は向上したと思われる。

【人材養成事業】

①満足度

それぞれの事業の参加者アンケートでは、「舞台芸術制作セミナー」が満足度100%、「地域伝承芸能育成事業」が満足度87.6%を達成。

②習熟度

アンケートによると、「スキルアップにつながった」と答えたのは、「舞台芸術制作セミナー」で88.9%、「地域伝承芸能育成事業」で93.8%。「これからの活動に役立った」と答えたのは「舞台芸術制作セミナー」で88.9%、「地域伝承芸能育成事業」で100%を達成。参加者が求める内容のセミナー・研修を提供することができたといえる。

③継続性

アンケートの「もっと深く知りたいか」の項目で、「舞台芸術制作セミナー」、「地域伝承芸能育成事業」とも100%を達成。また、「是非このセミナーを続けてください。よければ、中級・上級と行ってもらえると嬉しいです」や「またセミナーがあったら参加したいです。もっと裏方の仕事を知りたいと思いました」等、更なる修得意欲の向上に繋がったことが感じられる結果となった。

【普及啓発事業】

①裾野の拡大

アウトリーチ事業については、「楽器を演奏してみたくなった」では58%、「コンサートに行きたくなくなった」では42%、「今日の授業のことを家族に話したい」では67%がはいと回答。「コンサートに行きたくなくなった」は半数に届かなかったものの、それ以外では6割程度の肯定的回答を得た。

バックステージツアーにおいては、全体の90%が「劇場機構や舞台芸術についてもっと知りたくなった」と回答。興味の増大が確認できた。

市町村ホールと連携した鑑賞事業においては、熊本都市圏以外の観客を確保し、「地方在住者の鑑賞機会となった」かどうかを測定。アンケートから割り出した推計で2,480人ほどが熊本都市圏以外の観客で、新型コロナウイルス感染症の影響で1公演中止となったことを考慮すると、目標(2,500人)はほぼ達成できたといえる。また、約30%の来場者が同様の実演芸術公演を初めて鑑賞したと回答、鑑賞機会の拡大に寄与することができた。

②誰もが文化芸術に親しめる環境づくり

知的・発達障害児(者)向けの体験プログラムでは、事前研修や鑑賞サポートの実施等で安心して鑑賞できる環境づくりを行い、アンケートでは77%が「今後もこういった公演にいきたいと思う」との回答が得られた。

③文化芸術の福祉分野への活用

演劇的手法を活かした徘徊者声かけ模擬訓練ワークショップにおいて、アンケートでは、96%が「演劇が認知症の人への対応について理解することに役立った」と回答した。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】

助成対象の3公演とも事業期間は概ね適切で、当初の計画通りに実施した。事業費については、「くまモン音楽祭」は出演者の旅費負担が当初予定よりも低く抑えられ、一方で共催者負担金を多く得られたため、収益率は当初予想費44.8ポイント増の85.1%となった。「第61回熊本県芸術文化祭オープニングステージ」は大きな予実の乖離はなかったが、地元演奏家の登用で旅費を抑えられたことで収益率を若干改善することができた。「チェコ・フィルハーモニー管弦楽団」は、支出はほぼ計画通りだったが、券売の伸び悩みで収入が見込みを下回ったため、収益率が下振れした。

【人材養成事業】

「舞台芸術制作セミナー」の事業期間は概ね適切で、当初の計画通りに進めることができた。ただし10月12日に開催予定だった「舞台芸術と法律」が、台風19号が関東へ接近したことにより、都内在住の講師の来熊が不可能となり延期となった。同日に開催された「広告とデザイン」は講師が県内在住だったため問題なく実施することができた。

「地域伝承芸能育成事業」の事業期間は当初予定していた講師が急病となり変更が生じたことから予定より早く練習を開始した。計画通りとはいかなかったが、目標としていた新春公演でのお披露目を叶えることができた。事業費に関しては、「舞台芸術制作セミナー」で講師の謝金下がったこともあり、予定よりも事業費を抑えることができた。「地域伝承芸能育成事業」においても、講師の変更や日程の見直しにより交通費の負担が減ったこと等の理由から、予定していた事業費を下回った。当初の計画通りにはいかなかったが、経費の削減に努めることができた。今後は事業の計画、関係者との調整を綿密に行い、計画と実績に大きな差が開かないよう注意したい。

【普及啓発事業】

台風の影響で「県劇盆踊り」を中止し、コロナ禍で「市町村ホールネットワーク事業」のうちの1公演を中止したが、そのほかは当初の計画通りに進めることができた。

事業費については、中止に伴う経費の減のほか、旅行パックの活用により旅費が減少し、全体の支出が予定を大幅に下回った。収入については「市町村ホールネットワーク事業」の一部中止で共催者負担金が減少したが、そのほかは計画通りとなった。アウトプットに対しては事業費を小さく抑えることができたといえるが、予実管理の面では予算段階で情報の収集や精査に努める必要がある。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

地域の文化拠点としての機能を果たすため、県立劇場の4つのミッションをもとに県内の芸術文化の創造や実演芸術の提供を積極的に行った。

【公演事業】

「第61回熊本県芸術文化祭オープニングステージ『大地のうた』」では、ミッション4「県民の文化芸術鑑賞（活動）の殿堂としての劇場」として民謡をテーマに県民参加の創作ステージを企画。熊本県の各地に残る民謡だけでなく、熊本から広がった民謡、全国で脈々と受け継がれる民謡を県民に紹介する機会とした。当初集客に苦勞するのではと考えていたが、従来の客層に加え若年層への民謡の普及を図るため出演者に若い歌手を入れる、手に取りやすいデザインの広報物を準備する等の工夫をしたことで入場者数は目標をクリアすることができた。県内の有識者で構成した文化事業評価委員からも「熊本各地の民謡を解説を交えながら紹介することで曲の背景などを感じながら鑑賞できた」「会場そのものが一体となった企画であつたという間の2時間半だった。お客さんにとっても県劇がより一層近いものになったのではないかと思う」等肯定的な評価を得た。その他公演においても来場者の満足度は平均して97.5%を達成、初めて民謡やオーケストラの公演を聴いた来場者も目標10%を上回る17.5%となる等、県民のニーズを捉えるだけでなく、新たな観客の獲得でも結果を出すことができた。

【人材養成事業】

「舞台芸術制作セミナー」において、熊本県内でも雇用と育成が課題となっているアートマネジメント専門人材の育成に取り組んだ。これから舞台芸術に関わる仕事を目指すだけでなく、県内の公共ホール職員にも受講を呼びかけ、ミッション2「県内文化ホールの中核施設」及びミッション3「県内文化ホールの中核施設」としての役割を果たした。また「地域伝承芸能育成事業」では熊本県に江戸時代から残る清和文楽の実演家育成を行い、「舞台芸術制作セミナー」同様ミッション2、3をクリアした。アウトリーチプログラムの指導にあつた淡路人形座は高い技術力と豊富な経験があり、以前から清和文楽とは若手後継者の育成等で協力体制が取れていたため、3日間という短期間ではあつたが充実した研修を行うことができた。また三番叟の指導を行った中村花誠、藤舎仁鳳、鶴澤燕翔はそれぞれがプロの演奏家として九州で活躍しており、演奏に関する技術の向上だけでなく新たな連携体制を作ることができた。清和文楽普及のため、今回の研修がこれから新たな取り組みに繋がること期待できる。今後も熊本県の文化拠点を担う劇場として、伝承芸能の保存、普及のために必要な人材の育成に継続的に取り組んでいきたい。

【普及啓発事業】

舞台芸術を取り巻く県内の環境を整備し、誰もが等しく文化芸術を楽しむことができるような事業を展開した。子どもたちにクラシック音楽に親しみを持ってもらうことを目的とした「演奏家派遣アウトリーチ事業」や過疎地域を含む地方に舞台芸術公演を届ける「市町村ホールネットワーク事業」は、開催市町と連携を取りながら協力して事業にあつた。「劇場って楽しい！！」ではこれまで熊本県内で普及が進んでいなかったインクルーシブシアターを目指し、県内ホールスタッフの研修を実施。障害を持つ方の舞台芸術鑑賞を全国でも先駆けて行ってきた国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」プロデューサーの鈴木京子、(株)リアライズ バリアフリーイベントディレクターの南部充央を講師に迎えたほか、熊本市周辺の発達障害の現状を知るために熊本市発達障がい者支援センターみなわの地域支援マネージャー松尾由美にも協力を依頼。発達障害児・者への支援の実情を伺い、公演の際には各施設への広報協力を依頼した。「地域をむすぶアートプロジェクト」では現在問題となっている認知症徘徊者の事故を減らすため、古くからの商店街がある硯台地域コミュニティーセンターに協力を依頼。演劇的手法を使った声掛けワークショップを実施した。このように、普及啓発事業においてはその分野の専門家の意見を仰ぎながら、県内各地域の関係者と連携を取り、地域の文化拠点として課題解決や目標達成のために機能を発揮することができた。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

地域の文化拠点として、建物（ハード）、組織（ソフト）両面からの充実を図り、更なる地域文化芸術の発展に寄与した。

建物設備としては、平成 30 年に演劇ホールの改修工事を行い、舞台吊物設備等を更新。これまで手動で動かしていたバトンを電動式にした他、高さの記憶、際限も可能となる等より安全で使いやすい環境となった。令和 2 年度も施設老朽化に伴う改修工事が予定されており、2 つの専用ホールを持つ劇場としてより快適で安全な舞台環境を県民に提供する。

ソフト面では、県立劇場の職員研修（シアターアクセシビリティ研修等）への参加や自主事業の視察研修を、熊本県公立文化施設協議会に加盟する公共ホール職員に呼びかけ、県立劇場のみならず県内全域の文化活動の底上げに繋がるよう取り組んだ。自主事業においては、質の高い舞台芸術鑑賞機会を県民に広く提供するため、専用ホールの特徴を生かした「チェコ・フィルハーモニー管弦楽団」や、劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業として取り組んだ「九州交響楽団」公演、「お気に召すまま」、「めにみえない みみにしたい」のほか、これまで民謡に親しみのなかった方にも楽しんでいただけるプログラムとした「第 61 回熊本県芸術文化祭オープニングステージ『大地のうた』」を実施し、来場者満足度は平均 97.5%を達成。初めて生のオーケストラや民謡の公演を聴いたと答えた来場者は全体の 17.5%となり、舞台芸術の鑑賞人口の裾野を拓け、鑑賞機会を増やすことができたといえる。また県民参加のステージを創作し、県外・県内のプロの演奏家と地元の学生やアマチュア演奏家と一緒に演奏する機会を作った（「くまモン音楽祭」、「熊本県芸術文化祭オープニングステージ」）。県内の演奏家に対しても働きかけることで、更なる文化芸術の振興・発展を図った。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当財団は熊本県立劇場の開館以来、施設の管理運営及び文化事業を担い、質の高い実演芸術を県民に提供、高い評価を得てきた。平成 28 年熊本地震は改めて県立劇場の役割を問う機会となり、県では「熊本県立劇場のあり方検討会」の答申を受けて、熊本県立劇場条例を改正。実演芸術を担う人材の育成及び確保を新たな県立劇場の役割として追加し、また指定管理者の選定の特例（非公募）が可能となった。平成 31（令和元）年度から非公募選定による指定管理期間がスタートし、より長期的な視点で経営・事業計画を策定している。

【人材面】

平成 27 年度から計画的採用を実施し、即戦力となりうる人材（20 代半ばから 30 代後半）を採用してきた。平成 29 年度には組織改編により 4 グループ制、正職員 16 名の体制とし、意思決定の迅速化、責任と根拠の明確化等、職員の意識改革を行っている。また、有期契約職員の無期転換等により、正規雇用率は平成 28 年度の 50.0%から平成 30 年度には 66.6%に改善した。

さらに、令和元年度には人材育成基本方針を策定。「多様な人材の確保」「適正な評価による育成と登用」等の各種制度を順次スタート、5 年度に評価見直しをしてローリングさせていくこととしている。

【財務面】

財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書）の通り健全な財務状況を維持している。文化庁や地域創造等の助成金（令和元年度実績：24,959 千円）のほか、共催相手方からの制作受託金（7,561 千円）、市町村負担金（4,140 千円）等、多様な財源を確保。また、平成 30 年度からは熊本市民会館の自主事業制作を受託、業務の拡大により経営の安定化を図っている。

【各方面とのネットワーク】

熊本県立劇場は、九州各県や全国の劇場・音楽堂等との幅広いネットワークを持つ、熊本県内唯一の劇場である。平成 10 年に九州内拠点ホールによるネットワーク「九州類似ホール連絡会」を立ち上げ、毎年定期的な会議を行う等リーダー的役割を果たしている。また、全国公立文化施設協会専門委員会の特別環境部会へ委員として参加しているほか、劇場・音楽堂等連絡協議会では、九州から唯一事務局メンバーとして参加している。

また、県内においては、35 館が加盟する熊本県公立文化施設協議会の会長館として、県内全域の文化振興と舞台芸術のレベルアップを図るため、県立劇場からの派遣指導や県立劇場での受入研修、県内公立文化ホール自主文化事業の企画制作支援、ネットワーク事業やアウトリーチ事業の共同実施等を積極的に行っている。

高等教育機関に関しては、これまでも事業実施に際し連携してきたが、より人材育成に資する取り組みとするため、令和 2 年 3 月に平成音楽大学および熊本デザイン専門学校と人材育成に係る連携協定を締結した。

【施設面】

適切なメンテナンスおよび改修によりトラブルを未然に防止し、施設の持続性を維持している。令和元年度は空調機や排水管の維持補修、電気設備や監視カメラ等の部品交換工事など、45 件（約 16,104 千円）の修繕工事を行った。また、県の保全計画について、県営繕課や建築設計業者等と密接な協議を重ねながら実施にあたっている。